

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
13						手術部門システム	
13	1					手術部門患者情報システム <ソフトウェア>	
13	1	1				ログオン機能	
13	1	1	1			システムにログインするためのスタッフ情報はスタッフマスタで設定できること。	○
13	1	1	2			利用者ごとにマスタの有効期間を設定できること。	○
13	1	2				端末設定	
13	1	2	1			端末ごとに麻酔記録用端末などの役割を設定できること。また、役割設定に応じた起動時の画面を構成できること。	○
13	1	2	2			麻酔記録用端末では、麻酔記録に係る機能のボタンだけを表示するなどの制御ができること。	○
13	1	3				表示機能	
13	1	3	1			アプリケーションは、SXGA（1280×1024ドット）以上のディスプレイ表示に対応でき、SXGA以上の表示が可能なディスプレイの場合、ウィンドウズの最大化ボタンを押すことにより最大化表示できること。	○
13	1	3	2			麻酔記録画面は縦向き、横向きのどちらのワイドディスプレイにも対応して最大化表示できること。	○
13	1	4				入力機能	
13	1	4	1			タッチ入力での操作を考慮し、基本的な操作に関しては、マウスによる右クリック操作が不要で、左クリックのみで対応できること。	○
13	1	5				手術申込み参照/手術スケジュール作成機能	
13	1	5	1			手術申込み情報として診療科名、手術予定日、患者ID番号、患者氏名、生年月日、年齢、性別、身長、体重、病棟、希望麻酔方法、手術開始時刻、手術所要時間、感染症の有無、主治医/術者名、病名、術式名、術中使用の特殊装置、備考を表示できること。	○
13	1	5	2			緊急患者入室の際は、手術申し込みがない状態でも記録を開始でき、後から申し込みを受信した場合には、患者IDをキーとして紐づけができること。	○
13	1	5	3			帯グラフ表示での手術スケジュール作成ができること。	○
13	1	5	4			症例ごとの帯には入室から手術開始、手術終了から退室などの時間幅がわかるように帯の色を分けて表示できること。	○
13	1	5	5			更新権限のあるスタッフのみが手術スケジュール作成、変更できること。	○
13	1	5	6			手術スケジュール作成中に更新権限のあるスタッフの入力が一定期間ない場合は、自動的に権限を放棄し、参照モードに切り替わります。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
13	1	5	7			帯グラフ上の症例にマウスカーソルをあてると、その症例の手術情報がポップアップ画面で表示できること。	○
13	1	5	8			帯グラフのスケジュール画面に対して手術症例、麻酔科医、看護師、器材の割り付けをマウスによるドラッグアンドドロップ操作でできること。	○
13	1	5	9			割付の際、スタッフの重複や、器材の重複に対し、重複があったことを伝えるメッセージが表示できること。	○
13	1	5	10			看護師の割り付けは、器械出し看護師、外回り看護師を分類して登録できること。この際、症例に割り付けられたスタッフ名は、器械出し看護師と外回り看護師の違いを文字色を区別できること。	○
13	1	5	11			スケジュール画面上に「○日から○日までは麻酔科学会期間中」といった割り付けの際に参考になる情報を表示できるコメント欄があります。コメントの内容はコメント設定機能で内容と表示開始日、表示終了日を登録できること。	○
13	1	5	12			手術室番号と開始時間、終了時間を指定して、症例割り付けができない部屋と時間があることを登録できること。また、手術スケジュール画面では帯グラフ上に割り付け制限のある部屋と時間が帯表示できること。	○
13	1	5	13			手術スケジュール作成時の帯グラフ（予定）と手術実施後の帯グラフ（実績）を上下に並べて表示できること。	○
13	1	5	14			手術の進行状況に合わせた、リアルタイムな時間情報でスケジュール画面にてスケジュール作成ができること。	○
13	1	5	15			手術予定表で指定した日の症例一覧を印刷できること。	○
13	1	5	16			手術スケジュールで作成した帯グラフを印刷できること。	○
13	1	6				センター機能	
13	1	6	1			指定した日付の手術予定一覧を表示できること。	○
13	1	6	2			手術予定一覧の項目には、手術日、手術室、診療科、帰室先、患者ID、患者氏名、患者カナ、性別、年齢、病名、術式、麻酔科医、執刀医、助手、手術進行状況、請求実施送信有無が表示できること。	○
13	1	6	3			手術予定一覧の項目の各タイトル部分をクリックすることで、症例一覧の並び順をソートできること。	○
13	1	6	4			画面に表示されている症例の合計件数、麻酔科関与件数、麻酔科非関与件数、緊急手術件数を常時表示できること。	○
13	1	6	5			期間指定、患者ID、患者氏名、診療科、病棟、帰室先、麻酔科医、手術日の曜日、左記の複合組み合わせ、による患者検索ができること。	○
13	1	6	6			手術中止症例、麻酔科非関与症例の表示有無を選択できること。	○
13	1	6	7			手術予定一覧画面上で、手術中止症例、麻酔科非関与症例を事前に取り決めた背景色で表示できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
13	1	6	8			緊急申込み、感染症の有無などによって、症例の文字色を変えることができること。	○
13	1	6	9			スタッフ全員に連絡したい情報がある際に、メッセージを登録すると、手術予定一覧画面上に常時表示できること。	○
13	1	6	10			手術予定一覧画面でログオフ操作した場合、患者名など患者情報を非表示にし、次のログイン操作が完了するまで、患者情報の参照ができない仕組みです。	○
13	1	6	11			指定された項目を自動的にチェックして、該当した患者には「！」マークを付けて注意症例としてお知らせする機能があること。	○
13	1	6	12			手術症例一覧より症例中止、削除等の処理ができること。	○
13	1	6	13			手術予定一覧から中止患者と未割付患者を区別して表示できること。	○
13	1	7				麻酔記録機能	
13	1	7	1			麻酔記録画面は、トレンド画面、イベント画面、リマークス画面、体位／ライン画面、サブトレンド画面、薬剤画面、IN／OUT画面、術中血液分析検査データ画面、リマークス画面から構成され、トレンド画面、イベント画面、リマークス画面、体位／ライン画面は常に表示できること。	○
13	1	7	2			サブトレンド画面、薬剤画面、IN／OUT画面、術中検査データ画面、リマークス画面は、画面切り替えをすることなく、スクロールすることですべて参照できること。	○
13	1	7	3			サブトレンド画面、薬剤画面、IN／OUT画面、術中検査データ画面、リマークス画面の表示順序はカスタマイズできること。	○
13	1	7	4			1画面に表示する時間幅は、30分、1時間、2時間、4時間、6時間、8時間及び12時間の時間幅から選択できること。	○
13	1	7	5			どの表示時間幅の場合でも、トレンド情報、イベント情報、リマークス情報、薬剤投与情報、体位／ライン情報は各情報の記録時間をもとに時系列で把握できる表示です。	○
13	1	7	6			イベント情報はファンクションキーの設定ができること。	○
13	1	7	7			トレンド表示のトレンドデータの種類、表示色、スケールは術中においても任意に選択できること。	○
13	1	7	8			IN／OUTバランス画面、退室時サマリ画面、実施情報確認画面を有し、アイコンボタンを押すことにより参照できること。	○
13	1	7	9			イベント入力画面、硬膜外情報入力画面、脊椎麻酔入力画面、局所麻酔入力画面、挿管／抜管画面、薬剤入力画面、IN／OUT入力画面、術中検査データ入力画面、体位／ライン情報入力画面、リマークス入力画面、退室時サマリ画面はそれぞれ入力必要事項をまとめた専用画面があること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
13	1	7	10			硬膜外情報入力画面、脊椎麻酔入力画面、局所麻酔入力画面、挿管／抜管画面、退室時サマリ画面は導入時の打ち合わせによりカスタマイズできること。	○
13	1	7	11			硬膜外情報入力画面、脊椎麻酔入力画面、局所麻酔入力画面、挿管／抜管画面、退室時サマリ画面は登録パターンを設定でき、ボタン操作にてプリセットできること。またプリセットのメンテナンスができること。	○
13	1	7	12			イベント、リマークスの入力には処置中での入力を考慮し、ペン等のツールを用いる事無く、タッチディスプレイに対しての手入力可能なインターフェースです。	○
13	1	7	13			患者入室／退出時刻、麻酔開始／終了時刻、手術開始／終了時刻、挿管／抜管情報をイベント情報として記録し、画面上にイベントマークで表示できること。また、イベントマークにマウスを合わせると、別画面を開くことなく、ポップアップで内容が表示できること。	○
13	1	7	14			記録されたイベント情報から手術時間、麻酔時間を自動的に計算できること。	○
13	1	7	15			入力したリマークス、体位・ライン情報はアイコンもしくは番号で表示され、入力した時間の時間軸にあわせて表示できること。また、入力した内容は、別画面を開くことなく内容を確認できること。	○
13	1	7	16			体位を入力した場合、麻酔記録画面には体位の絵を用いたアイコンを表示できること。	○
13	1	7	17			輸液、輸血／出血、尿のIN／OUTデータは増分入力、全量（積算）入力の2つのどちらのモードでも入力でき、実施情報をIN／OUT画面に表示できること。	○
13	1	7	18			薬剤名リストは麻酔薬、外用薬、などの分類ごとに分けられ、選択した種類に応じた薬剤名が表示できること。	○
13	1	7	19			薬剤名リストの表示画面で、薬剤の検索ができること。	○
13	1	7	20			1つの薬剤名称に対して、複数の薬剤を混ぜ合わせたセットを登録できること。この場合、混ぜ合わせる割合はセットから選択時に変更できること。	○
13	1	7	21			薬剤情報記載時に持続とワンショットの投与を行う薬剤の場合、持続とワンショットを別行で記載および同一行にて投与記録の記載ができ記載方法を薬剤により設定ができること。	○
13	1	7	22			薬剤の分類に応じて麻酔記録での薬剤表示色を設定できること。	○
13	1	7	23			新規薬剤選択時に、投与種別（ボラス／持続）、経路情報を同一画面で決定できること。	○
13	1	7	24			薬剤選択時には、すでに入力済みのライン情報が優先的に表示され、経路情報として利用できること。	○
13	1	7	25			脊椎麻酔イベント画面、局所麻酔イベント画面で入力した薬剤は、自動的にIN画面に薬剤名称、投与量が表示できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
13	1	7	26			持続薬剤に対して加薬の入力を行った場合、IN項目は持続薬剤の下に行に加薬を示すマークと共に加薬薬剤を表示できること。	○
13	1	7	27			輸液の停止と共に次の新規輸液を選択する行為を一連の操作でできること。	○
13	1	7	28			PCAポンプ使用時に使用する複数の薬剤をIN項目の一行にまとめて表示でき、ボーラス量、ロックアウトタイムを含めた投与入力ができること。	○
13	1	7	29			輸血情報入力時に、U（ユニット）、mlのどちらの単位でも入力できること。また、U入力時には自動的に合計量はmlへ変換することができること。	○
13	1	7	30			IN/OUTバランス表は、入力されたIN/OUT情報から、晶質液、膠質液、血液製剤、尿量、濃厚赤血球等に自動的に分類、計算できること。	○
13	1	7	31			リマークス（定型文入力）内容は、麻酔管理、手術操作、合併症等の分類に分けて設定することができ、リストから選択式で入力できること。また、選択後に任意の文言に修正できること。	○
13	1	7	32			入力されたリマークス情報を時系列で表示するリマークス画面を持ち、麻酔記録画面上で表示のON/OFFができること。	○
13	1	7	33			リマークス画面では、イベント、薬剤、体位、リマークスの分類で表示の絞込みができること。	○
13	1	7	34			プロポフォール、レミフェンタニル、リドカイン、フェンタニルなどの薬剤に関して、予測血中濃度、効果部位濃度をシミュレーションでできること。	○
13	1	7	35			複数成分の薬剤の血中濃度、効果部位濃度を同時に参照ができること。	○
13	1	7	36			血中濃度、効果部位濃度は規格の異なる同一成分の薬剤をまとめて確認できること。	○
13	1	7	37			麻酔ガスなど計算が必要な薬剤も、自動的に時間計算を行い請求情報を作成できること。	○
13	1	7	38			手術中に各部屋のバイタルを一画面で表示できる全室参照画面を有すること。また、この画面から参照時点の各部屋の麻酔記録を呼び出せること。	○
13	1	7	39			手術中に他室の麻酔記録を参照できること。また、このとき参照画面は1分ごとに自動的に更新できること。	○
13	1	7	40			イベント入力支援機能では、麻酔法による選択および術式による選択が行え、術中でも変更できること。	○
13	1	7	41			麻酔開始/終了を入力する際に、併せて代表的な薬剤/輸液の開始量、停止の入力が連動する機能があること。その代表的な薬剤/輸液は開始時投与量を含め、ユーザ側で選択・設定をすることができること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
13	1	7	42			あらかじめ登録された定型的な流れに沿って設定されたイベントボタンを押すだけで、時刻とイベント項目欄へ各種（挿管、血ガス、麻酔薬等）イベントマークを麻酔記録上に入力、表示することができること。イベント内容は詳細入力画面が自動表示され、選択方式で詳細情報の追記を行うことができること。また設定したイベントボタンに複数のアクションの設定をできます（入室時ボタンを押した場合に入室イベント、仰臥位、酸素投与量がワンクリックにて複数同時登録ができます）。更に、登録の追加、変更、削除はメンテナンスを行えること。	○
13	1	7	43			投与量入力は薬剤名欄もしくは投与量入力フィールドをクリックすることでテンキーボタンを備えた入力用ウィンドウが開き、あらかじめ設定した投与種別で投与量を入力できること。	○
13	1	7	44			投与量入力は、入力を行いたい項目の任意の時刻を指定することにより、時刻・量などを入力する入力用ウィンドウを表示し、入力することができること。また、現在時刻ボタンやイベント時刻ボタンを装備し、現在時刻やイベント発生時刻での入力の際はボタン押下で時刻が入力することができること。	○
13	1	7	45			薬剤の投与においてはデフォルト値、または頻用する数量は複数設定ができること。	○
13	1	7	46			手術室入室前に症例で使用する薬剤の事前登録を行い、患者入室時に麻酔記録に事前登録された薬剤がセットされること。	○
13	1	7	47			記録終了時入力漏れが内容に停止されていない薬剤、IN量が入力されていない薬剤、定義した必須項目が登録されていない場合メッセージが表示されること。	○
13	1	7	48			記録の事後入力にて時間を設定する場合、イベント時間を選択し時間設定が行えること。	○
13	1	8				ステータスモニタ表示機能	
13	1	8	1			手術情報は、手術室・手術開始予定時間順に表示できること。	○
13	1	8	2			手術予定、麻酔記録とリンクし、各手術室のイベント状況を表示して、自動的にアップデートできること。	○
13	1	8	3			一画面に表示できない件数になった場合は、定期的に画面切り替えを行う時間を設定できること。	○
13	1	9				検索・統計機能	
13	1	9	1			以下の検索条件を複数設定し、該当する記録を一覧表示できること。 患者ID、性別、年齢、血液型、身長、体重、手術実施日、診療科、感染症、麻酔科医、術者、手術部位、実施術式、確定診断名、麻酔方法、手術時間、麻酔時間、出血量合計、使用薬剤、偶発症、体位等	○
13	1	9	2			検索結果の一覧表から検索結果患者毎に術中麻酔記録を参照できること。	○

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
13	1	9	3			以下の集計を行い、集計毎に指定されたフォーマットで印刷できること。 手術室毎の月間・年間利用状況、科別毎手術予定時間と実際の手術時間差の月間・年間の集計、麻酔科医別・麻酔方法の月間・年間の集計、麻酔科医別・麻酔時間の月間、年間の集計	○
13	1	9	4			検索条件は次回以降も使えるように保存できること。	○
13	1	10				医療機器連携	
13	1	10	1			生体情報モニタ（フィリップス社製）からの数値情報を取り込めること。	○
13	1	10	2			生体情報モニタ（フィリップス社製）からの数値情報は確認したいパラメータに変更が術中にできること。	○
13	1	10	3			生体情報モニタ（フィリップス社製）からの波形情報を取り込めます。取り込んだ波形は1ヵ月間保存し、それ以降でも利用者が必要と判断した波形データは任意に保存できること。	○
13	1	10	4			生体情報モニタ（フィリップス社製）の波形情報は印刷ができること。	○
13	1	10	5			生体情報モニタ（フィリップス社製）の波形情報は永久保存操作または期間保存にてサーバー容量の中で半永久的に保存ができること。	○
13	1	10	6			血液ガス分析装置からデータ出力できる場合、血液ガス測定結果をオンラインで取りこむことができること。	○
13	1	10	7			血液ガス分析装置接続用クライアントには、手術室リストが表示され、表示されている手術室を選択することにより、検査結果の送信先を指定できること。	○
13	1	11				医療情報システム・他部門システム連携	
13	1	11	1			以下の連携を行えること。	
13	1	11	1	1		①特別なアプリケーションをインストールすることなく、医療情報システムのWEBブラウザを使って麻酔記録が参照できる。	○
13	1	11	1	2		②医療情報システムでWEBブラウザを起動する場合は、医療情報システム上で開いている患者のIDに紐づいて起動できる。	○
13	1	11	1	3		③医療情報システムから利用者マスタ、薬剤マスタなどを受信する。	○
13	1	11	1	4		④医療情報システムから、以下の手術・麻酔申し込み情報を受信する。 診療科名、患者氏名、患者ID、年齢、生年月日、性別、身長、体重、病名、入力者、術者、助手、手術予定日、予定術式、予定手術時間、血液型、感染症、術前合併症と治療経過など	○
13	1	11	1	5		⑤確定した手術スケジュールを医療情報システムへ送信する。	○
13	1	11	1	6		⑥医療情報システムから中央検体検査結果内容を受信する。	○
13	1	11	1	7		⑦医療情報システムシステムへ麻酔/手術時間、使用薬剤、スタッフの情報を送信する。	○
13	1	11	1	8		⑧医療情報システムDWHへ手術（麻酔記録を含む）の実施情報を送信する。	○
13	1	12				日本麻酔学会提出レポート（JSA台帳）連携	

別紙 1 医療情報システム要求仕様書

要求仕様							必須
13	1	12	2			本システムで有するデータで、JSA麻酔学会台帳に必要なデータを出 力できること。	○
13	1	12	3			偶発症の入力の際、必須項目が抜けていればメッセージを出すことが できること。	○
13	1	13				過去データ移行	
13	1	13	1			旧システムを新サーバーにデータ移行できること。	○
13	1	13	2			使用するシステムの検索機能を使用し、旧システムの検索可能な項目 を対象としたデータ検索を行えること。検索された結果は旧システム にて参照ができること。	○
13	1	13	3			生体モニタのデータを1分単位のデータとして保持していること。	○